

令和4年度第1回帯広市環境審議会 議事録（概要）

日 時：令和4年8月31日（水）14:00～16:00

場 所：帯広市役所10階 第5A会議室及びWeb（ZOOM）での参加

○出席者：12名（欠席者3名）

- ・会議室での参加（7名）
- ・委員：尾山大誠委員、加納靖宏委員、末安豊子委員、永田雅恭委員、丹羽勝久委員、谷地史織委員、山中宗治委員
- ・Web（ZOOM）での参加（5名）
- ・委員：宗岡寿美会長、石井洋副会長、有働あけみ委員、高山直保委員、橋本靖委員
- ・事務局：小野都市環境部参事、林中都市環境部環境室長、西島環境課長、鎌田係長、関井係長、守山主任、石川主任、清水主任補、東主任補、武田主任補
- ・傍聴者等：報道関係者2名

○配布資料：座席表、委員名簿、次第、資料1

1 開会及び審議会成立の報告

2 委員自己紹介

3 事務局員紹介

4 議事

(1) 報告事項 令和3年度版帯広市環境白書について

事務局より令和3年度版帯広市環境白書をもとに説明。

I. 令和3年度版環境白書第1章 帯広市の環境行政について

○委員からの意見・質疑

【委員】5ページ、取り組みの進捗状況、自然共生社会の形成中、帯広の森の育成に関わる活動者数が、本来増えるべきところが減っているということは新型コロナウイルス感染症の影響が考えられるのでしょうか。

【事務局】帯広の森の育成に関わる活動者数に関しては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から市民協働のイベント等が減り、参加者が減少しました。

【委員】市民参加と広域連携中、出前環境教室参加人数が著しく減少しているのも同じ理由ですか。

【事務局】出前環境教室参加人数に関しては、目標値に対し、令和2年度までの累計した参加人数となっています。

【委員】これは、参加人数を今後7年間積み上げていくということですか。

【事務局】そのとおりです。

Ⅱ. 第2章第1節 地球環境の保全について

○委員からの意見・質疑

【委員】12 ページ、都市ガス使用量については主に家庭部門ですが、反対に13 ページの表の中の下にあるプロパンガスの減少が著しく多くなっていますが、プロパンガスから都市ガスに切り替わっているのか、それとも何か要因があるのでしょうか。

【事務局】13 ページ、委員からご質問がありましたエネルギー使用量について、プロパンガスが減少し、都市ガスが増えたのは、帯広市の市有施設における増減を記載したものです。

都市ガスが増加したのは、主に学校で重油ボイラーからガスボイラーに変更してきているため都市ガスの使用量が大幅に増加しています。

プロパンガスは、使用を控えたことで減少したものと捉えており、プロパンガスと都市ガスの増減につきましては、特段因果関係があるとは考えていません。

12 ページの都市ガスの使用量は帯広市全体での数値であり、13 ページは市有施設でのエネルギー使用量の増減となっておりますのでご理解ください。

Ⅲ. 第2章第2節 自然共生社会の形成について

○委員からの意見・質疑

【委員】19 ページ エ. 特定外来生物対策（アライグマ対策）のアライグマの捕獲頭数について、年々増加していますが、野生のアライグマが増えることで増加しているのか、それとも捕獲対策が効率化されたことによるものなのでしょうか。

【事務局】アライグマの捕獲頭数が年々増加傾向にあることに関しまして、生息数の正確な把握は出来ていませんが、繁殖力が強いいためアライグマの頭数が増えているものだと考えています。

【委員】アライグマの捕獲される場所について、主に農地や農林地といった郊外で捕獲されているものが多いのでしょうか。それとも、いわゆる市街地での捕獲事例も近年見られるのでしょうか。

【事務局】アライグマの捕獲に関しては、郊外の営農者に罠の設置をお願いしており、そちらで捕獲されたアライグマです。

【委員】19 ページ、帯広市自然環境監視員制度において、3名の方を委嘱しているということですが、市の環境課職員なのか、それとも専門的な外部の方をお願いしているのでしょうか。

【事務局】委嘱している自然環境監視員ですが、市の職員ではなく、地元住民の方や環境等に造詣が深い方をお願いし、監視をしてもらっています。

【委員】17 ページ、帯広市自然環境保全地区等の指定は、最近増えていないようですが、今後増やす予定があるのか、それともこれくらいと見なしてこのまま維持するのか、方針があれば教えていただきたい。

【事務局】帯広市自然環境保全地区については、現在第三期帯広市環境基本計画に基づいて取り組みを進めています。

過去、第一期と第二期帯広市環境基本計画の中で自然環境保全地区を増やすとしていまし

たが、第三期計画では、自然環境保全地区を増やすということではなく、現状の自然環境保全地区を現状のまま保全していくことに力を入れていくことを考えています。

【委員】19 ページ、アライグマのことですが、平成 30 年～令和 2 年の間に営農者などに罠等仕掛けてもらい捕まえているとのことですが、罠の数が増加しているのか、罠の数と同じなのに捕獲数が増えているのか、捕まえるための努力量がこの 3 年間、どう変わっているのか教えてもらえると、アライグマの数との関係性が見えてくると思うので、ご説明をお願いします。

【事務局】この 3 年間、特段罠の数を急激に増やしてはいませんので、捕獲されているアライグマが増えているということは、生息数が増えているということになります。

IV. 第 2 章第 3 節 生活環境の保全について

○委員からの意見・質疑

【委員】25 ページ、一番下の表の直近 5 年間の積雪 pH 調査と書いてありますが、これは酸性雨のデータではないと思いますが、適切で、あっているのか伺います。

【事務局】この調査は、酸性雪調査というもので、冬季に採取装置により雪を採取し行っているもので雨ではなく、雪の調査となっています。

【委員】27 ページ、水質測定状況の記載がありますが、今、マイクロプラスチックが流れているということで、色々な川、音更町などでも水質調査で出ていると聞いており、それが水質測定のどこに該当するのか、また、調べているのか聞かせていただきたい。

【事務局】帯広市においては、マイクロプラスチックについて調査は行っておりませんが、レジ袋削減やプラスチック再資源化のためのリサイクル等を推進し、適正な利用に努めています。

【委員】私の方で補足させていただきます。通常、生活環境の保全に係る水質の環境基準で河川を対象とする場合は、この pH、それと BOD、これは溶存酸素量となりまして有機物がどれだけあるかという指標になります。それと SS といって浮遊粒子状物質が通常指標になります。また、帯広市は農業地域ですので、窒素や栄養塩も併せて評価対象とすることがあります。

【委員】26 ページ、積雪 pH 経年変化の表に pH の環境基準が示されていません。

5.6 というか、正確には 5.62 だと思いますが、一定割合の大気圧における溶け込んだ二酸化炭素が含まれた時の純粋な pH の値が 5.62 より酸性になった場合に酸性雨と一般的に呼んでいますが、環境基準で言えば 6.5～8.0 または 6.0～8.5 と基準があると思いますので、水質の環境基準も併せて示した方が市民にも分かりやすいと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】検討させていただきます。

V. 第 2 章第 4 節 循環型社会の形成について

○委員からの意見・質疑

【委員】45 ページ、ごみの量が令和 2 年度と比較し減少しているとのことでしたが、ちょうどその頃からコロナ禍により、外に出ることを控えるようになって家庭ごみは増えていると認識を持っていますが、本当にこの年のごみの量は減っているのでしょうか。減っているようであ

れば理由を教えてください。

【事務局】45 ページ、一般廃棄物排出量の推移ということで内容が載っておりますとおり、確かに家庭系のごみの排出量は増加しています。対して、事業系の排出量が減少していますので全体としては減少しています。

IV. 第2章第5節 市民参加と広域連携について

○委員からの意見・質疑

【委員】51 ページ、小中学校の授業に行かれていますとお話しされました。54 ページ活力ある学校づくり支援事業において、令和2年度から「おびひろ市民学」に行かれています。小中学校の授業で環境というものは幅広いと思うのですが、どのような内容の授業をされていますか。

【事務局】おびひろ市民学の中で、SDGs に関する単元を設けており、環境分野も SDGs のひとつにあたるということで、SDGs の説明と環境の問題も合わせてお話しをしています。

【委員】51 ページ、エ. 清掃ボランティアで「エコフレンズ」は個人を対象としたと書かれていますが、広報紙などで呼びかけているのでしょうか。

【事務局】広報おびひろとともに、全戸配布する省エネ啓発チラシで取り組みを紹介するなど、この制度について皆さんにお知らせしています。

【委員】清掃ボランティアで「クリーン・キャンパス・21」は企業・団体、「エコフレンズ」は個人を対象としたボランティア活動ということですが、町内会での清掃等も対象の一つなのでしょうか。それとは別に、公園を清掃するから集まってくださいなどと声をかけ集めるような形をとっているものですか。

【事務局】町内会でされている地域清掃とは別に、「クリーン・キャンパス・21」は企業・団体が個々に担当としている地区の清掃ボランティアを行うほか、市内中心部で全体清掃を行っています。「エコフレンズ」は個人またはグループが、ご自身の都合に合わせ、可能な時に道路や公園のごみを拾う清掃ボランティア活動です。

【委員】52 ページ、エ. 出前環境教室など、環境関係の講座をやっているということですが、講師はどういう方に依頼しているのか教えてください。

【事務局】基本的に環境課の職員がテーマにあったお話しをしています。

VII. 全体を通しての質疑応答等

○委員からの意見・質疑

【委員】帯広市の水道水がおいしいという PR を積極的に今後も進めていくのは予想できるのですが、他の環境モデル都市である京都市ではウォーターサーバーの会社と包括連携協定を結び市内百何か所かに水道水と直結式のウォーターサーバーを設置し、おいしい水道水を飲みましょうという取り組みをスタートさせるなど、新しい取り組みを進めています。

帯広市のおいしい水を今後とも積極的に PR をしてもらいたいと考えており、前向きな取り組みをしている他の環境モデル都市もありますので、そういうところも参考にしながら

ら令和4年度の取り組みを進めてもらえると良いかと、提言ですがよろしくお願ひします。

【事務局】貴重なご意見ありがとうございます。今いただいた意見は担当部局に情報共有いたします。

(2) その他

・ゼロカーボンシティ表明と計画の策定について

事務局より資料1をもとに説明した。

○委員からの意見・質疑

【委員】ゼロカーボンシティを表明し、2050年に向け取り組みを進めていくこととなります。第三期帯広市環境基本計画の期間は令和11年度までとなっていますが、ゼロカーボンを目標とした新たな計画を、この第三期計画の中に反映させていくのか、それとも第四期から反映させていくのか、やるのであれば早く反映した方が良いかと思いますがどのように考えているのか伺います。

【事務局】計画の策定については、今年度調査を実施し、来年度地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定します。

第三期環境基本計画では環境モデル都市行動計画に則る形で温室効果ガス排出量削減の取り組みを進めることとしていますので、地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定した後に、環境基本計画とどのように整合をとっていくのか検討していきます。

【委員】カーボンニュートラルについてエネルギーの側面から見ると、温室効果ガスの合計をゼロにするという考えは全然不可能ではないと思いますが、ハードルは非常に高いものと感じています。

しっかりとした分析と調査が必要になると思いますので、色々な地域・自治体の取り組みを参考にしながら一步一步進めていけば良いのではないかと考えます。

【事務局】今回の調査業務の中で、他都市の先進的な事例も含めて、調査を進めていきたいと考えています。

【委員】ゼロカーボンシティというものは、全国のどれくらいの市町村がやろうとしているものなのか、また、完全に帯広市だけでやろうとしているのか、その背景を可能な範囲で教えていただければと思います。

【事務局】ゼロカーボンシティの表明については環境省が推進しており、対象としているのは都道府県と市町村です。単独でも良いですし、市町村であれば共同で表明し、まとまって計画を策定し取り組みを進めても良い枠組みになっていますが、基本的には都道府県や市町村がそれぞれ単独で2050年ゼロカーボンに向けた計画を策定し取り組みを進める自治体が多くなっています。

現状、ゼロカーボンシティを表明した都道府県、市町村の人口を足すと1億人を超えていますので、かなりの数の都道府県、市町村が表明しているということです。

十勝管内においても、帯広市を含め9市町村がゼロカーボンシティを表明しています。

【委員】ゼロカーボンシティを表明することで、国など何か補助金などの措置はあるのでしょうか。

【事務局】ゼロカーボンシティを表明することで国から支援を受けられるものはありませんが、支援の中でゼロカーボンシティを表明していることを確認する補助事業がありますので、表明していることが条件ではありませんが、有利に働く支援もあると認識しています。

・日高山脈の国立公園指定に向けた作業状況

【事務局】日高山脈襟裳国定公園とその周辺地域については、平成 28 年から国で国立公園化に向けた環境調査を実施しており、令和 2 年に新規の国立公園に指定すると方針が示されました。

昨年度、帯広市内に自然保護事務所が設置され、担当の自然保護官が着任しています。

今年度、日高山脈の国立公園指定に係り、6 月 9 日から 11 日にかけて中央環境審議会自然環境部会による様似町アポイ岳、えりも町襟裳岬、中札内村札内川での現地視察と意見交換会を実施しています。

意見交換会の中で環境省から、国立公園化に際し、現状の国定公園の約 2 倍、国内最大規模の国立公園となる見通しが示されたところです。

今後、環境省にて協議を整えしだい、関係自治体に公園計画素案が示され、指定に向けた作業が進められていく予定です。

○委員からの意見・質疑

【委員】日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に際し、十勝の名前は入らないのでしょうか。十勝のかなりの面積が国立公園に含まれることになり、帯広とか十勝とかこちら側の名前は入らないのか、帯広市としてどういった働きかけをされているのか聞きたいと思います。

名前が日高襟裳になっているので、意識が日高襟裳に重きが置かれ、十勝側は軽く見られる感じがしますが、いかがでしょうか。

【事務局】名称については、十勝を新しい国立公園の名称に入れたいということは何度も国にお話ししています。

令和 2 年度には、十勝圏活性化期成会、十勝側 19 市町村連名の要望として、新しい国立公園の早期指定と名称に十勝を入れてほしいと要望しています。

令和 3 年度には、十勝管内だけではなく日高の首長とも連名で日高山脈襟裳十勝国立公園にしてほしいと要望しています。

【委員】ぜひ、そういった取り組みを継続・加速していただきたい。名前に十勝が入っているほうが、我々もさらに関心や意識が高まっていくと思いますのでご尽力、引き続きよろしく願いします。

・全体を通じての委員からの意見・質疑

【委員】環境問題については、取り組みが出来ない、または、しにくいといったようなこともありますので、こういったところは市民の方々に理解をいただきながら進めていただければと思います。

9 閉会